



千葉妙見大縁起の世界

— 千葉妙見大縁起絵巻の全容 —



後谷陣に示現した妙見と平貞文・平頼門



千葉前陣野に示現した妙見と千葉成良



上総から下総に向かう御領一行

平成28年

8/9 (火) ~ 12/11 (日)

※「紙本著色千葉妙見大縁起絵巻」原本特別公開
平成28年10月18日(火)~12月11日(日)

資料の保護のため、
会期中展示替えを行います。

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻1-6-1
TEL: 043-222-8231 FAX: 043-225-7106
http://www.city.chiba.jp/edl/kyodo/kyodo_top.html

千葉市立郷土博物館



千葉妙見大縁起の世界

— 千葉妙見大縁起絵巻の全容 —

千葉氏と妙見信仰の結びつきは古くから知られている。千葉氏がなぜ、中央アジアに起源を持つといわれる北極星や北斗七星を神に見たてた「妙見」を信じたのか、その結びつきの理由などいまだ解明されていない点も多いが、千葉氏は移住したところに妙見を必ず伴った。そのため、千葉氏の所領となった地域には必ず妙見を祀る寺社が存在する。

千葉市若葉区の榮福寺に伝わる「紙本著色千葉妙見大縁起絵巻」(千葉県指定有形文化財)には、千葉尊胤の孫成胤が、妙見の加護により平家の棟梁平清盛の轉圜千田凱政を打ち破った結城野の戦いなど、千葉氏と妙見信仰に関わる数々の興味深いエピソードが描かれているが、それらをとおして、千葉氏の活躍や北斗山金剛授寺(現千葉神社)の成立など、中世の千葉市の様子を知ることができる。

今回の企画展では、この絵巻の全容をはじめて公開するとともに、千葉妙見大縁起に関わる資料を併せて展示し、そこに描かれた妙見信仰と千葉氏の歴史を紹介する。



妙見とその眷属(侍者)たち

この絵は、妙見菩薩を中心に、その周りを囲む眷属を描き、天上には北斗七星を配する。なお、左右に控える眷属は、その高僧から十二神将であることが分かるが、十二神将は、妙見の本尊仏(神仏習合思想で神の本体とされる仏教の諸尊)である七仏菩薩(如来の眷属とされることから、それとの関係もうかがえる。妙見菩薩の眷属を表す諸尊の習俗にふさわしい。



妙見宮に参詣する源頼朝

頼朝は、結城野において千葉氏に勝利をもたらした妙見の徳業を聞き、その加護を得るため千葉城内の妙見宮に参詣する。なお、「大縁起絵巻」は、頼朝の平家打倒もまた妙見の加護によるものとして、その功徳の大きさを誇っている。

この絵は、妙見宮に参詣し、妙見の加護を祈る頼朝の姿を描く。



妙見宮に参詣する人々

千葉成胤の子、胤朝は安貞2年(1228年)31歳の若さで亡くなるが、臨終の暈、妙見を交霊した皇子が出現し、天上から降りた金色の光が室内を照らした。目を開き立った人々がこの様子を見守る中、胤朝は静かに大往生を遂げたという。

この絵は、妙見の徳業に関わろうと妙見宮に参詣する人々の様子を描く。



『紙本著色下巻千葉妙見大縁起絵巻』(複製)

複製品(複製文化財) 複製品(複製文化財) 複製品(複製文化財)

この絵巻は、寛文2年(1662年)金剛授寺縁光院の高十九郎は隆光雅が制作したものである。巻末の「縁起図」によると『紙本著色千葉妙見大縁起絵巻(榮福寺蔵)』の絵や詞書を参考にして制作したものとされる。



金剛通形六角の加護

(千葉市立若葉区栄福寺蔵)

天正2年(1574年)、白井城主胤朝が城内妙見堂のために制作したもので、後に榮福寺に伝えられた。全体が金剛通形で六角柱型の表面に千葉氏の九曜紋を配する。

- 開催期間** 平成28年8月9日(火)～12月11日(日)
※『紙本著色千葉妙見大縁起絵巻』原本複製公開
平成28年10月18日(火)～12月11日(日)
資料の保護のため、会期中断開催もを行います。
- 休館日** 月曜日、祝日、8月30日(火)、8月20日(火)・27日(火)
10月4日(火)・11日(火)、11月1日(火)
※8月22日(月)、9月19日(月)・22日(水)、11月3日(木)は閉館します。
- 開館時間** 8:00～17:00 (ただし、入館は16:30まで)
- 会場** 千葉市立郷土博物館 2階企画展示室
- 入館料** 無料

交通案内

- JR千葉駅下車 東口(バスのりば)から、千葉大学病院行きまたは南矢作行き(千03、千03-1、千04)で「郷土博物館・千葉県文化会館」下車、徒歩3分
- 千葉モノレール「兩行前」下車、徒歩13分
- JR本千葉駅下車、徒歩15分

